

## 第4節 地域の現況

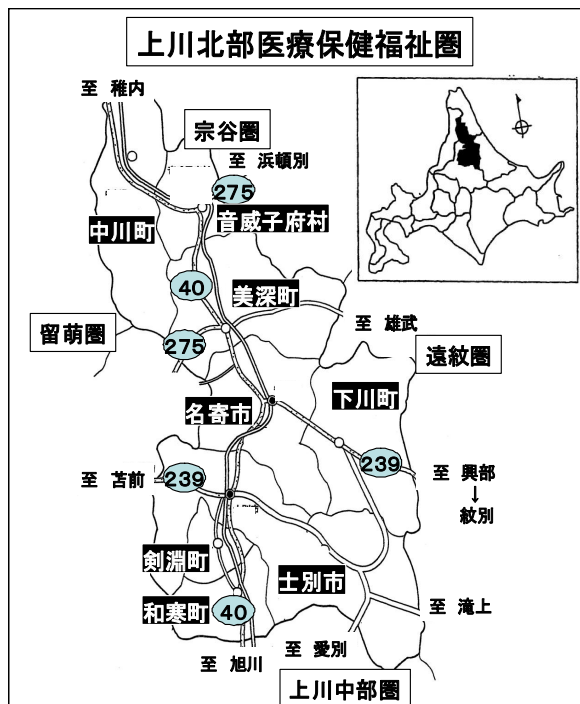
### 第1 地勢と交通

#### 1 地理・地勢

- 天塩川流域を抱える上川北部圏域は、上川総合振興局管内の最北部に位置しています。合併と分離の変遷を経て、現在は士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町の2市5町1村で構成されています。平成17年4月に「市町村の合併の特例等に関する法律」が施行され、国と道は、広域的で効率的な行財政運営を図ることを目指して、地方分権に基づく自主的な市町村合併を推進してきました。

こうした中で、上川北部圏域では、平成17年9月に士別市と朝日町が合併して士別市に、平成18年3月に名寄市と風連町が合併して名寄市になりました。隣接する二次医療圏としては、南は上川中部、北に宗谷、西に留萌、東に遠紋の4圏域に接しており、4圏域の中心都市には、旭川市、稚内市、留萌市、紋別市があります。特に旭川市は道北の中心都市であり、行政、保健・医療・福祉などの各分野において当圏域と密接な関係にあります。

- 天塩岳道立自然公園をはじめとした数多くの自然が残されている上川北部圏域は、面積が4,197.18km<sup>2</sup>と全道の5%を占め、ほぼ福井県の面積に匹敵し、東西に55km、南北に140kmの広大な圏域となっています。



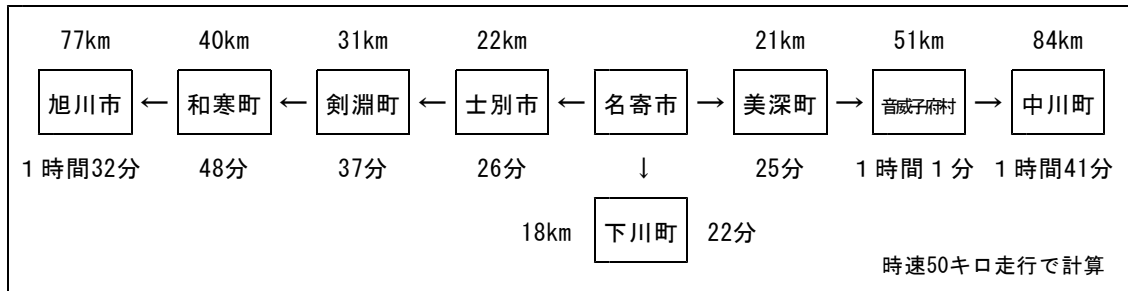
#### 2 気象・災害

- 上川北部圏域の気象は日本海側気候に属し、内陸部に位置していることから、冬季の寒さは非常に厳しい一方、夏季は真夏日を観測する日も多く、気温の年較差が大きく、また、道内でも雪の多い地帯となっています。
- 上川北部圏域は、以前、台風や集中豪雨による河川の氾濫が多く、家屋の流出や道路・橋梁の決壊、田畑の冠水埋没など災害が数多くありましたが、主要河川の治水事業が進められてきたことにより、最近では大きな水害の発生は見られていません。比較的的自然災害の少ない地域であるといえますが、平成30年9月の北海道胆振東部地震においては、震度1～震度4を観測し、また、令和4年8月には、宗谷地方北部を震源とする地震が発生し、中川町で震度5強が観測されるなど、災害に対する備えが必要となっています。

#### 3 交通

- 上川北部圏域は、旭川市を起点とする国道40号線とJR宗谷本線が並行して稚内市まで縦貫しており、圏域内外を連絡する重要な幹線となっています。下川町方面は興部町を経て網走市に至る国道239号線で名寄市につながっています。名

寄市から各市町村までの車による移動距離と所要時間は次のとおりです。冬季間は積雪のため、約1.3～1.5倍の所要時間が必要です。



- 上川北部圏域の高速道路については、札幌・旭川と結ぶ道央自動車道路が「士別剣淵インターチェンジ」までつながっており、名寄市徳田から美深町まで高規格幹線道路が供用されていますが、士別・名寄間は一般道しかありません。

なお、音威子府村から中川町に至る国道において、令和7年度に音威子府バイパスの開通が予定されており、交通安全性の向上と移動時間の短縮が期待されます。

- 上川北部圏域における公共交通機関としては、鉄道は下川町を除く7市町村にJRの停車駅があり、圏域内外を連絡しています。また、都市間バスは名寄・札幌間を運行しています。圏域内を結ぶ公共交通機関としては、名士バス、JR北海道バス、士別軌道バス、道北バスが運行し、住民の交通手段として重要な役割を担っています。圏域内の市町村と札幌・旭川間のJRによる所要時間は次のとおりです。

|    | 和寒町        | 剣淵町        | 士別市        | 名寄市        | 下川町        | 美深町        | 音威子府村      | 中川町        |
|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 旭川 | 28分        | 57分        | 40分        | 54分        | 1時間<br>22分 | 1時間<br>15分 | 1時間<br>47分 | 2時間<br>19分 |
| 札幌 | 1時間<br>58分 | 2時間<br>22分 | 2時間<br>10分 | 2時間<br>24分 | 2時間<br>52分 | 2時間<br>45分 | 3時間<br>11分 | 3時間<br>50分 |

※特急利用による最短時間で計算

※剣淵町は、剣淵・旭川間は快速列車、旭川・札幌間は特急利用

※下川町は、下川・名寄間はバス（所要時間28分）、名寄・旭川・札幌間は特急利用

## 第2 人口の推移

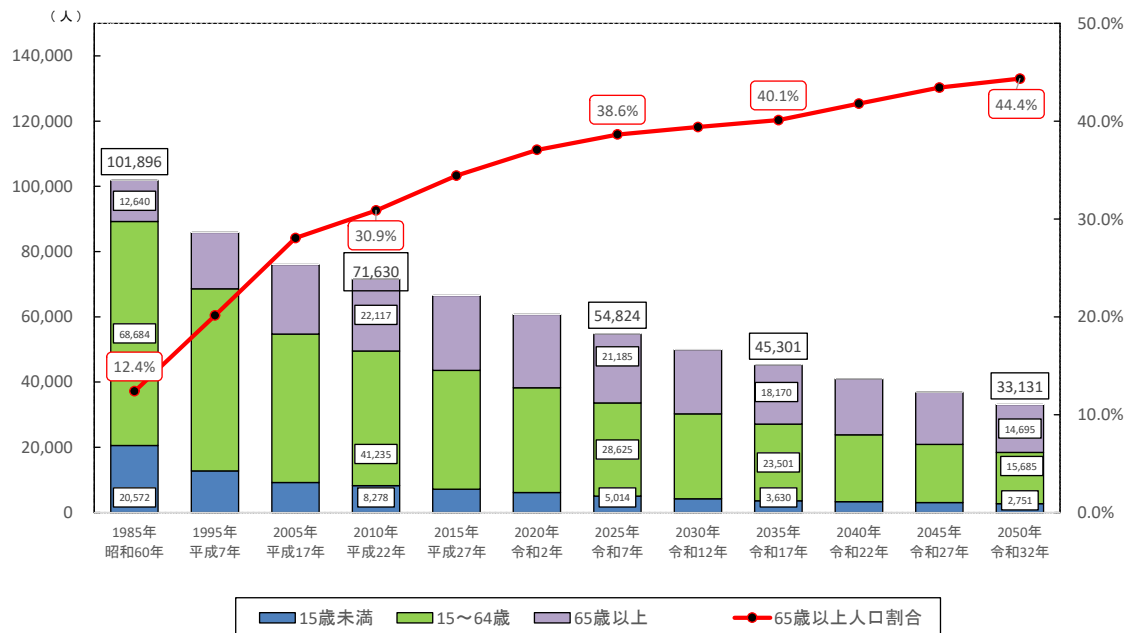
### 1 人口構造

(人口)

- 令和2年国勢調査では、上川北部圏域の総人口は60,763人で、北海道の総人口の1.2%となっています。国勢調査による人口の推移では、出生数の低下による自然減と人口の流出による社会減により、昭和40年以降減少が続いています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（令和5年推計）では、上川北部圏域の総人口は令和17年（2035年）には約46,000人、令和32年（2050年）には約33,100人と推計されています。
- 上川北部圏域は、面積が北海道の5%を占めていますが、総人口は1.2%に過

ぎません。人口密度が低く、集積度も低いことから、医療資源を含めた社会資源を地域に均等に整備することが困難な状況にあります。

【上川北部圏域の人口推移と将来人口推計】

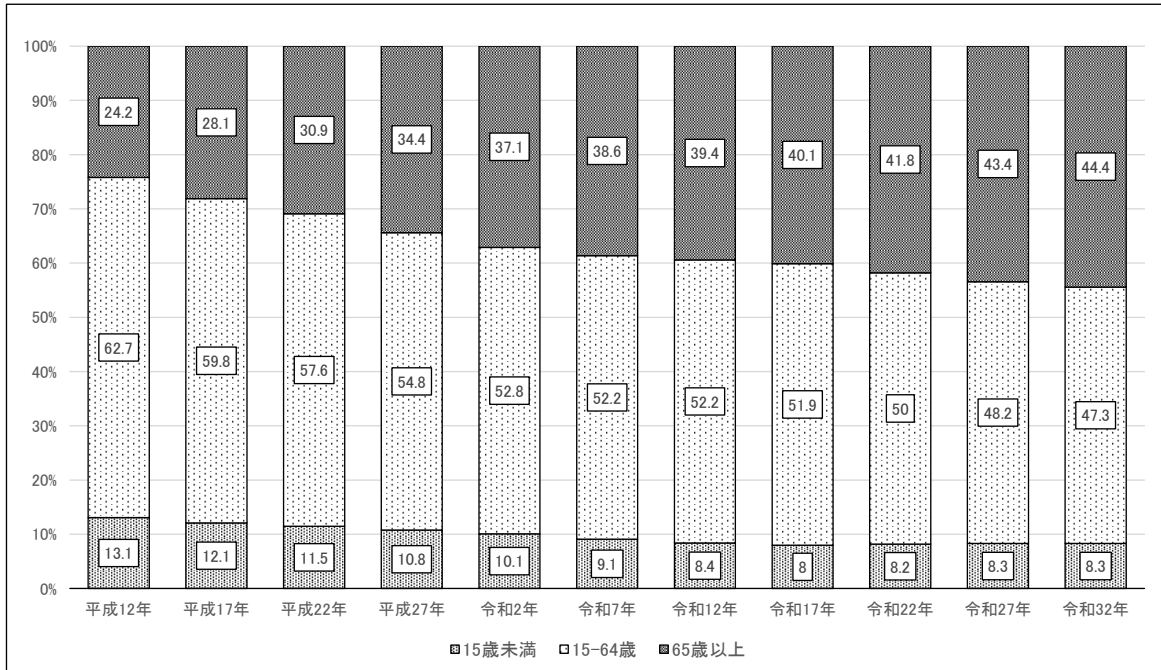


\* 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

(年齢三区分別構成割合)

- 上川北部圏域では、平成7年国勢調査において初めて65歳以上人口割合が年少人口割合（15歳未満）を上回って以降、65歳以上人口割合は年々増加しており、令和2年は37.1%となっています。
- 将来推計人口において、年少人口割合及び生産年齢人口割合（15～64歳）は減少傾向にある一方で、65歳以上人口割合は増加する傾向にあり、令和17年（2035年）には40.1%、令和32年（2050年）には44.4%になると推計されています。

【上川北部圏域の年齢三分構成比較（将来推計）】



\* 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

（世帯数）

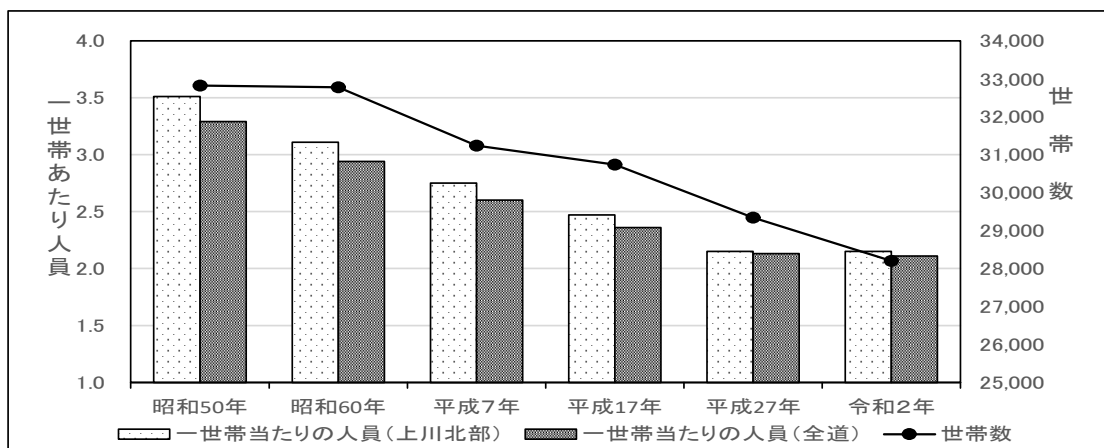
○ 令和2年国勢調査では、上川北部圏域の一般世帯数は28,204世帯となっており、一世帯当たりの人員は平均2.15人です。昭和50年の3.51人と比較すると、大きく減少しています。その要因としては、核家族化の進行により、高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の割合が増加したことが考えられます。

【上川北部圏域の世帯数及び一世帯当たりの人員の推移】

|                 | 昭和50年  | 昭和60年  | 平成7年   | 平成17年  | 平成27年  | 令和2年   |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 世帯数(上川北部)       | 32,819 | 32,776 | 31,235 | 30,735 | 29,340 | 28,204 |
| 一世帯当たりの人員(上川北部) | 3.51   | 3.11   | 2.75   | 2.47   | 2.15   | 2.15   |
| 一世帯当たりの人員(全道)   | 3.29   | 2.94   | 2.60   | 2.36   | 2.13   | 2.11   |

\* 国勢調査

【上川北部圏域の世帯数及び一世帯当たり人員の推移】

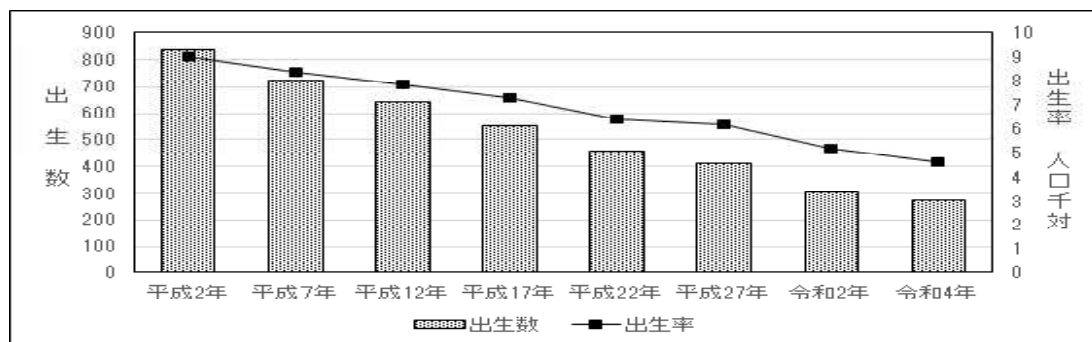


## 2 人口動態

### (出生数及び出生率)

- 上川北部圏域における令和4年の出生数は273人、出生率（人口千対）は4.6と減少が続いており、平成2年と比較すると67.6%の減となっており、減少傾向はたいへん顕著なものとなっています。
- 上川北部圏域における令和4年の合計特殊出生率\*は1.18であり、全道（1.12）を上回っていますが、全国（1.26）を下回っています。

【上川北部圏域の出生数及び出生率の推移】



【上川北部圏域の出生数及び出生率の推移】

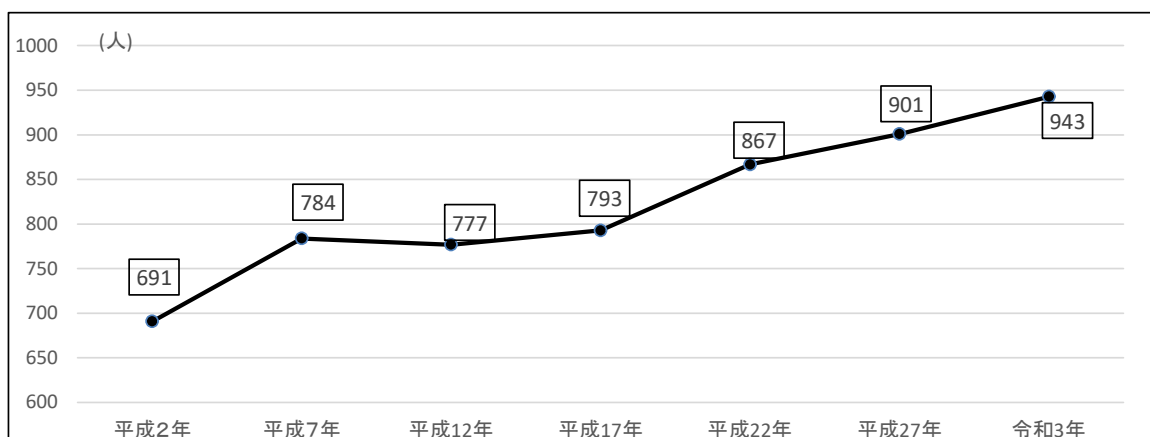
|     | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和4年 |
|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 出生数 | 834  | 724  | 645   | 554   | 457   | 413   | 305  | 273  |
| 出生率 | 9.0  | 9.0  | 7.9   | 7.3   | 6.4   | 6.2   | 5.2  | 4.6  |

\* 人口動態統計及び北海道保健統計年報

### (死亡数)

- 上川北部圏域における令和3年の死亡数は943人です。高齢化の進展に伴い、死亡数は増加傾向にあります。

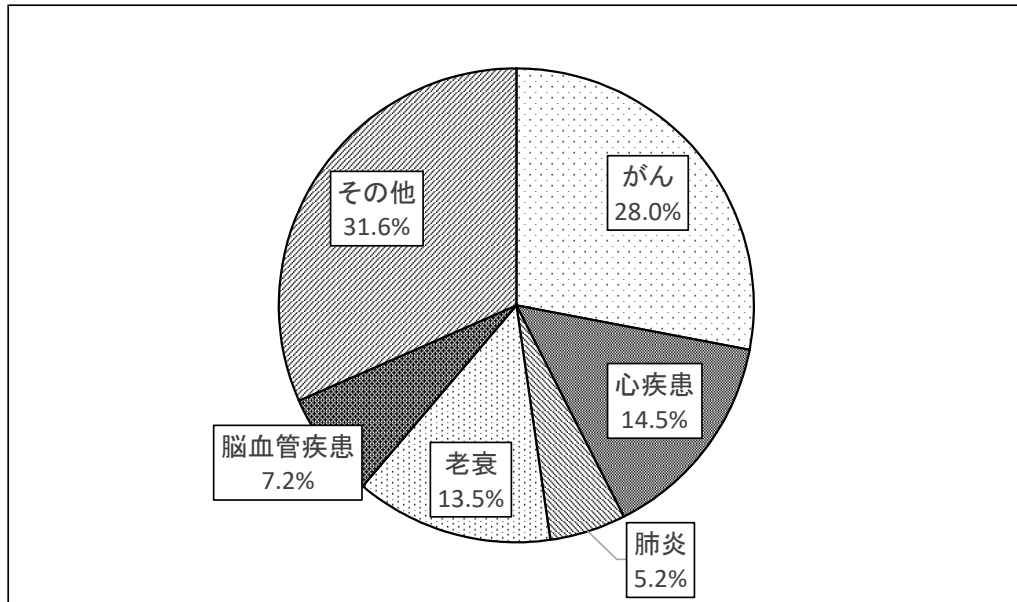
【上川北部圏域における死亡数の推移】



\* 合計特殊出生率：一人の女性が生涯に産む子どもの数に近似する指標

- 上川北部圏域における令和3年の死因を見ると、28.0%ががんのために死亡しており、心疾患の14.6%、老衰の13.5%が続いています。  
 なお、中間見直しの時点で11.0%であった肺炎については、5.2%と低くなっております。

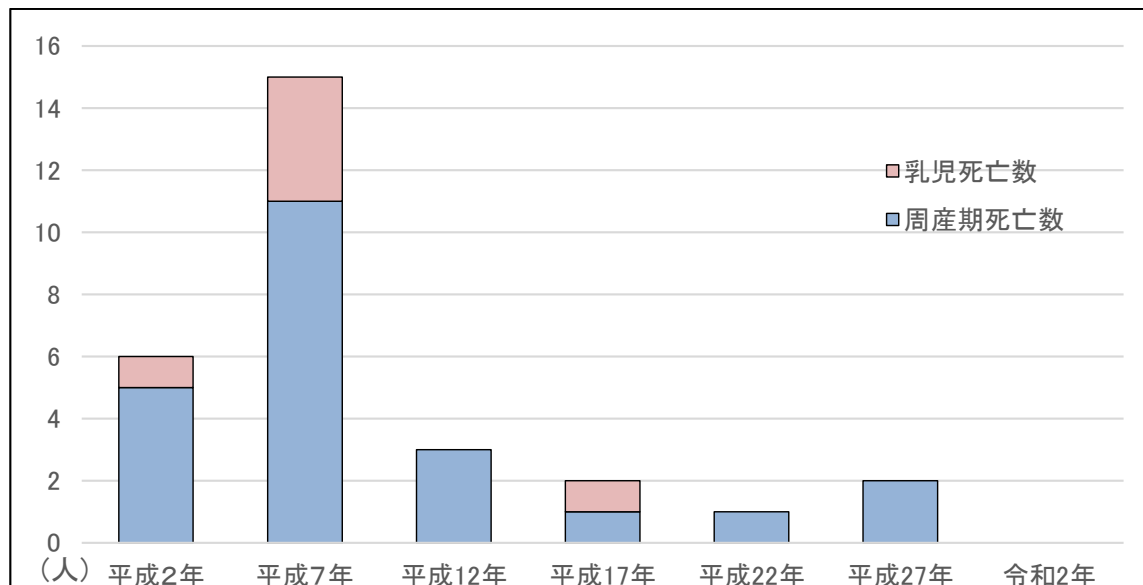
【上川北部圏域における主な死因別割合（令和3年）】



\* 人口動態統計

- 上川北部圏域における周産期死亡\*1数、乳児死亡\*2数は減少傾向にあり、令和2年の周産期死亡数及び乳児死亡数は0人となっています。

【上川北部圏域における周産期死亡数と乳児死亡数の推移】



\* 人口動態統計

\* 1 周産期死亡：妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡（生後7日未満の死亡）をいう。  
 \* 2 乳児死亡：生後1年未満の死亡をいう。

- 上川北部圏域では、令和3年の死亡者の85.2%に当たる803人が病院で、7.8%に当たる73人が自宅で、死亡しています。

【上川北部圏域の死亡場所別死亡数（令和3年）】

|           | 総数  | 病院  | 診療所 | 介護老人<br>保健施設 | 老人<br>ホーム | 自宅 | その他 |
|-----------|-----|-----|-----|--------------|-----------|----|-----|
| 総数        | 943 | 803 | 4   | 3            | 53        | 73 | 7   |
| (再掲)悪性新生物 | 528 | 484 | 2   | -            | -         | 34 | 2   |
| (再掲)心疾患   | 137 | 274 | 2   | 4            | 14        | 22 | 2   |
| (再掲)脳血管疾患 | 136 | 122 | 2   | -            | 4         | 8  | -   |

\*人口動態統計

### 第3 住民の健康状態

#### 1 生活習慣の状況

##### (運動習慣の状況) \*1

- 北海道では、運動習慣があると回答した者の割合は、20歳以上の男性では28.8%、20歳以上の女性では26.9%と、平成28年度調査から減少しており、新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響がうかがえます。

##### (食生活の状況) \*1

- 北海道では、バランスのとれた食事をしていると回答した者の割合は、20歳以上の男性では28.8%、20歳以上の女性では37.8%となっており、年代が上がるにつれ、その割合は増加傾向にあります。
- 1日当たりの習慣的な食塩摂取量については、20歳以上の男性では平均14.4g、20歳以上の女性では平均11.6gとなっています。

##### (休養) \*1

- 北海道では、睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合は、20歳以上の男性では26.8%、20歳以上の女性では27.4%となっています。

##### (飲酒の状況) \*1

- 北海道では、生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者（1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上）の割合は、男性では20.5%、女性では15.7%となっています。

##### (喫煙の状況)

- 北海道では、「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」者の割合は、20歳以上の男性では28.1%（全国25.4%）、20歳以上の女性では13.2%（全国7.7%）と、男女とも全国平均と比較し高い状況ですが、減少傾向にあります。\*2
- 喫煙経験のある未成年者（過去1か月間）の割合は、中学1年生の男子では0.3%（全国0.1%）、女子では0.1%（全国0.1%）、高校3年生の男子では1.8%（全国1.0%）、女子では0.4%（全国0.6%）となっています。\*3
- 日常生活で受動喫煙の機会を有する者の割合は、家庭5.4%、職場13.3%、飲食店17.0%となっています。\*1

## 【成人の喫煙率】

|    | 平成16年 | 平成19年 | 平成22年 | 平成25年 | 平成28年 | 令和元年  | 令和4年  |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 男性 | 49.9% | 43.9% | 35.0% | 39.2% | 34.6% | 31.7% | 28.1% |
| 女性 | 22.2% | 20.6% | 16.2% | 17.8% | 16.1% | 14.9% | 13.2% |

\* 国民生活基礎調査

## 【未成年者の喫煙率】

|       |    | 平成24年 | 平成29年 | 令和5年 |
|-------|----|-------|-------|------|
| 中学1年生 | 男子 | 0.9%  | 0.5%  | 0.3% |
|       | 女子 | 0.6%  | 0.2%  | 0.1% |
| 高校3年生 | 男子 | 2.9%  | 0.8%  | 1.8% |
|       | 女子 | 1.7%  | 0.5%  | 0.4% |

\* 北海道調査（保健福祉部）

## 【日常生活で受動喫煙の機会を有する者の割合】

|      | 平成23年 | 平成28年 | 令和4年  |
|------|-------|-------|-------|
| 公共施設 | 15.5% | 8.9%  | —     |
| 家庭   | 13.2% | 18.4% | 5.4%  |
| 職場   | 36.7% | 25.2% | 13.3% |
| 飲食店  | 44.3% | 41.7% | 17.0% |

\* 北海道健康増進計画

- 
- \* 1 健康づくり道民調査（令和4年）
  - \* 2 国民生活基礎調査（令和4年）
  - \* 3 令和5年北海道調査（保健福祉部）

## 2 生活習慣病の有病者・予備群の数等

### (高血圧の状況)

- 北海道では、高血圧について、「収縮期血圧の平均値」は、40～74歳男性で128.7mmHg（全国127.3mmHg）、同女性で123.1mmHg（全国122.5mmHg）となっています。\*1
- 上川北部圏域では、「収縮期血圧の平均値」は、40～74歳男性で130.0mmHg、同女性では126.2mmHgとなっており、いずれの値も全道を上回っています。\*1

### (脂質異常の状況)

- 北海道では、脂質異常症について、「LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合」は、40～74歳男性では13.3%、同女性では13.0%となっています。\*1
- 上川北部圏域では、「LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合」は、40～74歳男性では10.9%、同女性では11.0%となっており、全道を下回っています。\*1

### (糖尿病の状況)

- 北海道の令和3年度特定健診結果のHbA1c値\*2を男女別に見ると、「6.5以上（受診勧奨判定値）」該当者は、男性は4万711人（健診受診者の10.3%）、女性は1万6,376人（同4.7%）、「5.6%以上6.5%未満（保健指導判定値）」該当者は、男性では14万9,238人（同37.6%）、女性は12万8,186人（同37.2%）となっており、健診受診者の4割以上が、医療や保健指導を要する状態であると判定されています。\*1
- 上川北部圏域では、「6.5以上（受診勧奨判定値）」該当者は、男性では633人（同11.8%）、女性は234人（同5.1%）、「5.6%以上6.5%未満（保健指導判定値）」該当者は、男性では2,418人（同45.0%）、女性は2,183人（同47.6%）となっており、健診受診者の5割以上が、医療や保健指導を要する状態であると判定されています。\*1

### (肥満の状況)

- 北海道では、男性の肥満者（BMI25.0以上）の割合は、40～60歳代の区分で41.8%、同女性では24.2%となっています。\*1
- 上川北部圏域では、男性の肥満者（BMI25.0以上）の割合は、40～60歳代の区分で44.4%、同女性では26.8%となっており、全道を上回っています。\*2

---

\*1 厚生労働省「第9回NDBオープンデータ」

\*2 HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）：過去1～3か月の血糖値を反映した血糖値のコントロール指標

## 第4 患者の受療動向等

### 1 患者の受療動向

- 令和4年度の受療動向について、第二次医療圏ごとのデータを見ると、上川北部圏域の入院自給率は68.6%、外来自給率は86.0%となっています。
- 上川北部圏域に隣接する上川中部、宗谷、遠紋、留萌の4つの圏域と、北海道で最も人口が集積している札幌圏域を見ると、札幌圏域と上川中部圏域の入院・外来の自給率は他の圏域と比較して突出して高くなっています。
- 上川北部圏域の流出先圏域の構成比を見ると、入院・外来ともに上川中部圏域の割合が高くなっており、上川北部圏域が医療資源が豊富な上川中部圏域に隣接していることが要因として考えられます。
- 外来自給率は、他圏域と比較しても低くはありませんが、少子高齢化などを踏まえると、移動の手段が限られる高齢者への対応が重要になります。

#### 【入院患者の受療動向】

| 患者居住圏域 | 圏域内自給率 | 流出先圏域の構成比 |        |        |       |
|--------|--------|-----------|--------|--------|-------|
|        |        | 上川中部      | 札幌     | 中空知    | その他   |
| 上川北部   | 68.6%  | 27.52%    | 2.68%  | 0.73%  | 0.50% |
| 上川中部   | 97.9%  | 1.30%     | 0.23%  | 0.17%  | 0.37% |
| 宗谷     | 54.1%  | 18.05%    | 14.57% | 12.49% | 0.81% |
| 遠紋     | 56.7%  | 19.29%    | 13.19% | 5.81%  | 5.04% |
| 留萌     | 56.5%  | 19.32%    | 16.35% | 3.76%  | 4.10% |
| 札幌     | 99.1%  | 0.19%     | 0.17%  | 0.13%  | 0.46% |

#### 【外来患者の受療動向】

| 患者居住圏域 | 圏域内自給率 | 流出先圏域の構成比 |       |       |       |
|--------|--------|-----------|-------|-------|-------|
|        |        | 上川中部      | 札幌    | 宗谷    | その他   |
| 上川北部   | 86.0%  | 12.58%    | 1.05% | 0.08% | 0.31% |
| 上川中部   | 98.4%  | 0.41%     | 0.10% | 0.08% | 1.06% |
| 宗谷     | 82.8%  | 5.80%     | 5.64% | 4.36% | 1.40% |
| 遠紋     | 83.3%  | 9.47%     | 2.80% | 2.15% | 2.33% |
| 留萌     | 85.6%  | 5.45%     | 4.85% | 1.51% | 2.61% |
| 札幌     | 98.4%  | 0.23%     | 0.10% | 0.10% | 1.21% |

\* 入院患者、外来患者の受療動向：北海道医療データ分析センター事業（令和4年度受療動向）

## 2 患者数

### (1) 1日平均外来患者数

- 令和3年の「病院報告」（厚生労働省）によると、北海道の人口10万人当たりの1日平均外来患者数は1,315.0人（全国990.4人）で、このうち、「一般病院」は1,242.5人（全国945人）、「精神科病院」は72.5人（全国45.4人）となっており、全国平均値を上回っています。

### (2) 1日平均在院患者数

- 令和3年の「病院報告」（厚生労働省）によると、北海道の人口10万人当たりの1日平均在院患者数を病床の種類別に見ると、「一般病床」は673.3人（全

国493.4人)、「療養病床」は317.6人(全国195.2人)、「精神病床」は317.5人(全国215.7人)となっており、いずれも全国平均値を上回っています。

### 3 病床利用率

- 令和3年の「病院報告」(厚生労働省)によると、北海道では、病院の病床利用率は76.1%(全国74.6%)であり、病床の種類別に見ると、「一般病床」は66.9%(全国69.8%)、「療養病床」は84.8%(全国85.8%)となっており、全国平均値を下回っています。
- 上川北部圏域の令和3年の病床利用率は64.6%であり、「一般病床」は59.4%、「療養病床」は71.4%で全国、全道の平均を下回っています。

### 4 病床種類別の平均在院日数

- 令和3年の「病院報告」(厚生労働省)によると、北海道では、病院の平均在院日数は31.2日(全国27.5日)であり、病床の種類別に見ると、「一般病床」は17.3日(全国16.1日)、「療養病床」は182.5日(全国131.1日)となっており、全国平均値を上回っています。
- 上川北部圏域の令和3年の平均在院日数は25.9日であり、「一般病床」は15.8日、「療養病床」は125.2日となっており、全国、全道の平均値を下回っています。

## 第5 医療提供施設の状況

### 1 病院

- 上川北部圏域における病院数は、令和3年3月末で、1施設が閉院となり、令和3年10月1日現在で7か所となっています。  
また、総病床数は931床で、平成4年の1,443床をピークとして減少しています。
- 当圏域の令和2年の人口10万対病院数は、11.5であり、全道平均の10.4を上回っています。

#### 【上川北部圏域における病床数の推移】

|       | 総数    | 一般病床  | 療養病床 | 精神病床 | 結核病床 | 感染症病床 |
|-------|-------|-------|------|------|------|-------|
| 平成元年  | 1,387 | 1,041 | 0    | 232  | 82   | 32    |
| 平成10年 | 1,413 | 1,095 | 23   | 232  | 63   | 0     |
| 平成20年 | 1,154 | 684   | 301  | 165  | -    | 4     |
| 平成23年 | 1,123 | 663   | 291  | 165  | -    | 4     |
| 平成26年 | 1,013 | 663   | 291  | 55   | -    | 4     |
| 平成27年 | 1,013 | 653   | 301  | 55   | -    | 4     |
| 平成28年 | 993   | 575   | 359  | 55   | -    | 4     |
| 平成29年 | 962   | 544   | 359  | 55   | -    | 4     |
| 平成30年 | 962   | 562   | 341  | 55   | -    | 4     |
| 令和元年  | 961   | 591   | 311  | 55   | -    | 4     |
| 令和2年  | 961   | 591   | 311  | 55   | -    | 4     |
| 令和3年  | 931   | 561   | 311  | 55   | -    | 4     |

\*北海道保健統計年報、名寄保健所調(各年10月1日現在)により病床数に増減のある年次について記載

平成20年以降の病床数減の主な理由は次のとおりです。

20年：自治体病院の一般病床廃止で40床減

23年：自治体病院の一般病床廃止（21床減）と療養病床廃止（10床減）で総病床31床減

26年：自治体病院の精神病床廃止で110床減

27年：自治体病院の一般病床（10床減）から療養病床（10床増）へ転換

28年：自治体病院の一般病床廃止（20床減）及び一般病床（58床減）から療養病床（58床増）へ転換で総病床数20床減

29年：自治体病院の一般病床廃止で31床減

30年：民間病院の療養病床（18床減）から一般病床（18床増）への転換

令和元年：自治体病院の療養病床廃止（1床減）及び療養病床（29床減）から一般病床（29床増）への転換で総病床1床減

## 2 診療所

- 上川北部圏域における一般診療所数は、令和3年10月1日現在では、無床・有床合わせて34か所となっています。なお、一般診療所数には、診療所として届け出のある市町村保健（福祉）センターや特別養護老人ホーム等が含まれています。
- 全道では、無床診療所が増加し、有床診療所が減少していますが、当圏域では無床、有床とも概ね横ばいで推移しています。
- 令和3年の無床と有床を合わせた診療所数を人口10万対で見ると、全道の65.6に対し、当圏域は57.4と低くなっています。

### 【一般診療所数の推移】

|       | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 有床診療所 | 10    | 9     | 5     | 4     | 4     | 3     | 3     | 3    |
| 無床診療所 | 32    | 29    | 37    | 35    | 35    | 34    | 35    | 34   |
|       | 令和2年  | 令和3年  |       |       |       |       |       |      |
| 有床診療所 | 3     | 3     |       |       |       |       |       |      |
| 無床診療所 | 34    | 31    |       |       |       |       |       |      |

\* 北海道保健統計年報、名寄保健所調

- 上川北部圏域における歯科診療所数は、令和3年10月1日現在で29か所となっています。29か所の歯科診療所の他に歯科を標ぼうしている一般診療所が1施設あります。  
また、歯科を標ぼうしている病院が2施設あり、計32施設で歯科診療を実施しています。
- 歯科診療所数は、全道、当圏域とも減少傾向にあります。
- 令和3年の歯科診療所数を人口10万対で見ると、全道の54.4に対し、当圏域は48.9と低くなっています。

【歯科診療所数の推移】

|      | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全 道  | 2,910 | 3,025 | 3,020 | 2,983 | 2,968 | 2,934 | 2,905 | 2,884 |
| 上川北部 | 36    | 37    | 36    | 38    | 36    | 34    | 32    | 32    |
|      | 令和2年  | 令和3年  |       |       |       |       |       |       |
| 全 道  | 2,840 | 2,818 |       |       |       |       |       |       |
| 上川北部 | 31    | 29    |       |       |       |       |       |       |

\* 北海道保健統計年報、名寄保健所調

### 3 助産所

- 上川北部圏域の助産所は令和5年4月1日現在2か所ありますが、分娩を取り扱っている助産所はありません。

### 4 薬 局

- 上川北部圏域における薬局数は、令和5年3月31日現在、22か所となっています。
- 薬局数は、北海道ではほぼ横ばいとなっておりますが、上川北部圏域では、やや減少しています。

【薬局数の推移】

|      | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全 道  | 1,831 | 2,101 | 2,257 | 2,341 | 2,352 | 2,350 | 2,342 | 2,321 |
| 上川北部 | 36    | 37    | 24    | 28    | 26    | 26    | 25    | 26    |
|      | 令和2年  | 令和3年  | 令和4年  | 令和5年  |       |       |       |       |
| 全 道  | 2,333 | 2,331 | 2,325 | 2,339 |       |       |       |       |
| 上川北部 | 25    | 23    | 26    | 22    |       |       |       |       |

\* 北海道保健福祉部医療政策局医療薬務課調及び北海道保健統計年報

### 5 訪問看護事業所

- 上川北部圏域における訪問看護ステーション数は、令和5年4月1日現在、5か所となっております。保険医療機関のみなし指定事業所は35か所となっています。
- 訪問看護事業所数は、北海道では増加傾向が続いていますが、上川北部圏域では、横ばいとなっています。

【訪問看護ステーション数の推移】

|      | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 全 道  | 256   | 259   | 271   | 403   | 443   | 482   | 496   | 513  |
| 上川北部 | 1     | 4     | 4     | 4     | 4     | 4     | 6     | 6    |
|      | 令和2年  | 令和3年  | 令和4年  | 令和5年  |       |       |       |      |
| 全 道  | 540   | 575   | 625   | 676   |       |       |       |      |
| 上川北部 | 6     | 5     | 5     | 5     |       |       |       |      |

\* 北海道保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課、名寄保健所調

\* 指定居宅サービス事業所（訪問看護）※保険医療機関の「みなし指定事業所」を除く。

## 【保険医療機関のみなし指定事業所数の推移】

|      | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全 道  | 984   | 1,539 | 1,736 | 2,272 | 2,396 | 2,517 | 2,603 | 2,687 |
| 上川北部 | 0     | 25    | 27    | 34    | 34    | 34    | 34    | 34    |
|      | 令和2年  | 令和3年  | 令和4年  | 令和5年  |       |       |       |       |
| 全 道  | 2,787 | 2,880 | 2,970 | 3,068 |       |       |       |       |
| 上川北部 | 35    | 34    | 34    | 35    |       |       |       |       |

\* 北海道保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課、名寄保健所調

## 第6 医療従事者の年次推移

## 1 医師・歯科医師・薬剤師の状況

- 上川北部圏域においては、医師、歯科医師、薬剤師ともに多少の増減はありますが、ほぼ横ばいで推移しています。
- 令和2年の医療施設従事医師数を人口10万対で見ると、北海道の251.3に対し、上川北部圏域では186.0と低く、地域の医師不足は深刻であり、医師確保は重要な課題となっています。

## 【医師・歯科医師・薬剤師の状況】

(人)

|       | 平成18年 | 平成20年 | 平成22年 | 平成24年 | 平成26年 | 平成28年 | 平成30年 | 令和2年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 医 師   | 116   | 120   | 121   | 115   | 119   | 125   | 125   | 117  |
| 歯科医師  | 45    | 43    | 44    | 45    | 44    | 45    | 43    | 41   |
| 薬 剤 師 | 86    | 78    | 84    | 85    | 86    | 99    | 100   | 98   |

\* 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(隔年12月末現在)

## 2 看護師・准看護師の状況

- 上川北部圏域においては、令和2年は看護師は641人、准看護師は189人となっており、10年前の平成22年とを比較すると、看護師は128人(25.0%)の増加、准看護師は179人(48.6%)の減少となっています。
- 令和2年の人口10万人対の就業者数(常勤換算)について、上川北部圏域では、看護師は1,054.9人、准看護師は311.0、全道では、看護師は1,277.3、准看護師は285.4となっており、看護師においては全道を下回っています。
- 高齢化の進行により看護職員の需要は増加する一方、少子化などにより人材は不足しており、地域によっては確保に困難をきたしています。

## 【看護師・准看護師の状況】

(人)

|       | 平成18年 | 平成20年 | 平成22年 | 平成24年 | 平成26年 | 平成28年 | 平成30年 | 令和2年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 看 護 師 | 470   | 482   | 513   | 550   | 602   | 626   | 638   | 641  |
| 准看護師  | 397   | 376   | 368   | 360   | 331   | 288   | 245   | 189  |

\* 「看護師等従事者届」(隔年12月末現在)

## 3 保健師・助産師の状況

- 上川北部圏域においては、保健師、助産師ともに多少の増減はありますが、ほぼ横ばいとなっています。

【保健師・助産師の状況】

(人)

|     | 平成18年 | 平成20年 | 平成22年 | 平成24年 | 平成26年 | 平成28年 | 平成30年 | 令和2年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 保健師 | 73    | 84    | 80    | 72    | 72    | 94    | 92    | 78   |
| 助産師 | 16    | 21    | 24    | 22    | 21    | 26    | 25    | 27   |

\* 「看護師等従事者届」(隔年12月末現在)

4 歯科衛生士・歯科技工士の状況

- 上川北部圏域においては、歯科衛生士、歯科技工士ともに、多少の増減はありますが、ほぼ横ばいで推移しています。

【歯科衛生士・歯科技工士の状況】

(人)

|       | 平成18年 | 平成20年 | 平成22年 | 平成24年 | 平成26年 | 平成28年 | 平成30年 | 令和2年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 歯科衛生士 | 38    | 35    | 38    | 38    | 37    | 43    | 45    | 46   |
| 歯科技工士 | 17    | 17    | 16    | 16    | 13    | 11    | 11    | 15   |

\* 「歯科衛生士従事者届」(各年12月末現在)

5 主な病院従事者の状況

- 上川北部圏域における主な医療従事者は、下表のとおりになっています。
- 理学療法士、作業療法士はほぼ一定で推移しており、令和2年は、栄養士、臨床工学技師は増加していますが、管理栄養士は減少しています。

【主な病院従事者の状況(常勤換算)】

(人)

|               | 平成22年 | 平成24年 | 平成26年 | 平成28年 | 平成30年 | 令和2年 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 理学療法士         | 21.0  | 20.9  | 27.8  | 31.6  | 28.0  | 28.8 |
| 作業療法士         | 10.0  | 9.0   | 14.0  | 16.0  | 16.0  | 15.0 |
| 医療社会事業従事者*    | 6.8   | 4.5   | 1.8   | 3.0   | 0.0   | 0.0  |
| 管理栄養士         | 10.0  | 15.0  | 14.0  | 14.0  | 15.0  | 8.4  |
| 栄養士           | 3.9   | 2.9   | 2.0   | 2.0   | 2.0   | 6.9  |
| 診療放射線技師       | 24.9  | 25.0  | 29.0  | 8.0   | 29.0  | 29.5 |
| 臨床検査技師・衛生検査技師 | 30.5  | 30.5  | 33.0  | 33.6  | 33.4  | 34.5 |
| 視能訓練士         | 3.0   | 4.0   | 4.6   | 4.0   | 5.0   | 6.6  |
| 言語聴覚士         | 2.0   | 5.0   | 6.0   | 6.0   | 6.0   | 7.6  |
| 臨床工学技師        | 11.0  | 13.0  | 13.0  | 17.0  | 16.0  | 34.5 |
| 義肢装具士         | 5.0   | 6.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0  |

\* 「医療施設静態調査(従事者票)」(各年10月末現在)

\* 医療社会事業従事者：患者やその家族に対し疾病の治療等の妨げとなる経済的、精神的な諸問題等について相談、指導を担当する者(例えば、生活相談員、保護相談員、ケースワーカー、セラピスト、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等)